

フォローアップ女性交流会 in いばらき
～じっくり話そう、エネルギーや原子力のこと～

報告書

2002年11月23日(土)

水戸三の丸ホテル

主催：WIN-Japan (ウィン・ジャパン)

ご挨拶

WIN-Japan 会長

小川 順子

みなさまこんにちは。先日はフォローアップ in いばらきにご参加いただきましてありがとうございました。

原子力への理解活動は、一過性のものではなく、継続的な情報交換と、フェース to フェースの人的交流が必要であると思っています。私達は2001年11月24日に茨城県東海村で女性交流会を開催し、一般の女性たちとの信頼関係をより深いものにしたいと感じました。そこで草の根の原子力理解活動を着実に根づかせるために前回の参加者と、その方々の同伴者を対象に、よりきめ細かな話合いのできる集まりを企画しました。

この報告書は、フォローアップの一環として、当日の結果報告とともに、皆さんとのつながりをより確かなものにするために作成したものです。今後ともWIN-Japanの活動およびエネルギーや原子力についての関心を持っていただけたらと思います。



プログラム

- 11:00～ ビデオ上映
- 12:00～ ランチ
- 13:00～ 霧箱作成
- 13:30～ フリートーク
- 14:40～ 全体まとめ
- 15:00 終了



テーブルトーク (抜粋)

外国の子が「事故があるのは当たり前。地元住民が対処法を知らないことにびっくり。」と言っていました。そのことにびっくり。



実際に自分の目で見てみるのが良いと思います。勉強会や見学会など、自分が参加してためになりました。



実際の放射能の被害は心配していませんが、風評被害に対してはかなり不安です。



今回参加することで、原子力や放射線についてもっと知りたいと思うようになりました。これからは、新聞もしっかり読んでいろいろ勉強していきたいと思っています。



霧箱の実験

○ 放射線を身近に感じていただくために、プリンカップを使ったキットで、会員が講師になり、アルファ線が見える実験を行いました。



霧箱実験セット



原子力発電を廃炉にするのも、長い年月がかかると聞きました。もっと正確な情報が知りたいです。

現場にいる人すべてに正しい原子力知識があるわけじゃないと思います。国、会社が責任を持ってレベルアップをしていってほしいです。

医療レントゲンも含めて放射線の安全性が心配です。危険性はあるはずなのにその実態が伝えられていないと思います。放射線は目に見えない、音もしないので怖いのです。



消費者は、マスコミの情報に影響されてしまう。どういう危険があるのか、どうしたら危険でないのか、そういう知識を持たないまま、怖がるだけというのは間違っているのかも。



信頼関係が第一で、情報をきちんと公開するということが大切。今回みたいなこと（東電問題）があると、こつこつと積み上げてきた原子力に対する安心感の拠り所が、取り上げられて後ろ向きになってしまう。



学校で原子力のことを習ったことがありません。日本のエネルギー事情を考えると、エネルギー教育は大切だと思うのに。

前回は参加。活き活きとした女性との対話が楽しみで、今回も参加を決めました。

JCOの近くに姪が住んでいるので事故の時に慌てて電話をしたら、姪は子供の頃から放射線や原子力についていろいろ話を聞いているためか慌てておらず、「放射線は怖くないから平気なの」と言っていました。

電気は貯められないことを初めて知りました。エネルギーがなくなる前に何かしら手を打つべきなのでは？それには原子力も前向きに考えるといいと思います。



Women In Nuclear





アンケート結果

今回のフォローアップ女性交流会に参加された37名の皆様にアンケートをお願いしました。その結果、「この交流会に参加されてよかったと思えますか？」という問いには、全員の方が「良かった」と答えてくださいました。

また参加者の約80%以上の方が「本音で話をする事ができた」という感想を持ってくださいました。

原子力やエネルギー問題についての関心度は、右図に示すように8つの分野がほぼ均等に関心をもたれていることと、原子力発電の安全性や放射性廃棄物についての関心が高いことが分かりました。

日頃より原子力やエネルギー問題のどのような点に関心をお持ちですか？



(単位:名)

- 日本や海外のエネルギー・原子力情報
- 原子力発電の必要性
- 原子力発電の仕組みや安全性
- プルサーマルや燃料のリサイクル
- 学校でのエネルギー教育
- 原子力発電所と立地地域との共存
- 放射性廃棄物について
- 原子力防災



WIN-Japan 会員からの感想

- 参加者の皆さんの「何か学ぼう」という姿勢はすごく刺激になったし、新しい情報を学んだら、それを生かしていこうという知恵はすごいと感じました。
- 「一番知りたいのは実際に事故が起こった時にどうすればいいのか。」という言葉が印象に残りました。これが、地元の皆さん全てを代弁した言葉だろうと思いました。
- 参加者の「温泉からも放射線が出ているのならもう行けないわ」との発言から、やはり放射線は正確に理解されておらず、そのことがJCO事故の不安を増幅させていることも実感しました。
- 放射線という目に見えないものを理解するためには、自然放射線や人工放射線の違い等、不安材料となるべき疑問を一つ一つ払拭していくことが大事だと感じました。
- みなさんとお話をしていて、思っている以上に原子力の世界に染まってしまっている自分に気づき、簡潔にわかりやすくお伝えするためには、いつも相手の方の視点を持つことが必要だと感じました。

全体のまとめ

初めてのフォローアップ。また、様々な原子力の問題が起こった後の女性交流会ということで、WIN-Japanも色々な課題に挑戦し、悩み、そして新たな成果を得ることができたと思います。著名人の講演会もなく、4時間もの長い間「エネルギーや原子力のことをじっくり話そう」という会に、「本気で話がしたい」と集まっていた、たくさんの力強い女性の方々と、新たに出会うことができました。そして、最近の原子力問題より、身をもって体験したJCO事故の方が、いまなお印象深いという事実も知ることができました。十分な手応えを得た女性交流会でした。

またみなさまにお会いできる日を楽しみにしております。

2003年2月 WIN-Japan 女性交流会プロジェクトメンバー一同